

2023.12.9

「日本神話」について

清水徹朗

1. 「神話」と何か

神話 (Myth、Mythology) とは、**宇宙、人間、動植物、文化などの起源、創造**などを始めとする自然・社会現象を**超越的存在 (神)**や**英雄**などと関連させて説く説話。神々についての物語。

ギリシャ神話 (「イリアス」「オデュッセイア」)、創世神話 (「旧約聖書」)、
インド神話 (「マハーバーラタ」「ラーマーヤナ」)

昔話、説話、伝説との違い、アニミズム、自然崇拜

科学の発展によって**非合理、非科学的**であるとみなされた
神話学 (ミュラー、レビ・ストロース、ユング等)、比較神話学



2. 「日本神話」とは何か

「日本神話」とは「日本に伝わる神話」のこと

「**記紀神話**」……『古事記』『日本書紀』の神代編

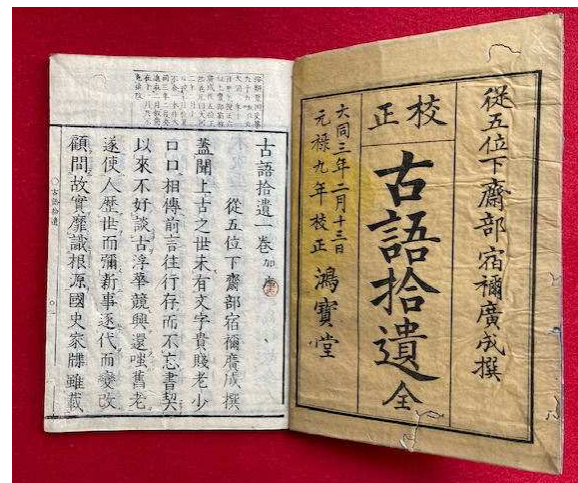
……**8世紀に大和朝廷によって成書化された神話**

『風土記』……諸国の産物・地名等の伝承(播磨、常陸、出雲、肥前、豊後)

祝詞(のりと)、宣命(せんみょう)

『古語拾遺』(807)……齋部氏(忌部氏)の伝承を中心にまとめたもの

『先代旧事本紀』(9~10世紀初め)……物部氏の立場からまとめられた史書



天地開闢、国生み・神生み、天の岩戸、中つ国の平定、国譲り
天孫降臨、海幸・山幸

出雲神話

「日本神話は**天皇国家の起源**を説明し、**天皇の統治権の神聖性**を立証する精神的支柱をなすという重要な機能を内在」(水野祐『日本神話を見直す』(1996))

「一般には、『記・紀』の神代の物語を『記・紀』の神話と知っている。しかし考えてみると、これを神話とよんでよいかどうか問題がある。……『記・紀』の神代の物語は、神話を材料としながらもそれをいちじるしく書き改めている……その書き直しは**天皇の祖先の天照大神の地位を高め、天皇の日本支配を正当化することを中心の目的**にしている。」(直木考次郎『日本神話と古代国家』(1990))



3. 『古事記』の概要

現存する**日本最古の書物**

稗田阿礼が「帝紀」「旧辞」の内容を誦習したものを**太安万侶**が文字に書き表し、編集して712年に元明天皇に献上。

上中下の三巻(天地開闢から推古天皇まで)

『帝紀』……天皇を中心とした古代の伝承(天皇名、后妃、皇子、皇居、治世、陵墓)

『旧辞』……宮廷内の物語、皇族や国の起源

上巻(かみつまき)……「**日本神話**」(天地開闢からイワレヒコ(神武天皇)の誕生まで)

中巻(なかつまき)……神武東征から応神天皇まで

下巻(しもつまき)……仁徳天皇から推古天皇まで

序文、偽書説、本居宣長



720年に完成 …… 約40年かかる

編纂のリーダーは舎人親王(天武天皇第三皇子)であったが、**実際の責任者は藤原不比等**

帝紀、旧辞以外に、諸氏の記録、百済三書、漢籍、寺院縁起など多くの文献を参照

全30巻、系図1巻(系図は現存しない)

本文以外に**多くの異伝**(「一書に曰く」)を含む

神代上(巻第1) …… 天地開闢からスサノオまで

神代下(巻第2) …… 葦原中国の平定、天孫降臨から神武天皇誕生まで

古事記(推古まで)より長く持統天皇までの歴史

(舒明、皇極、幸徳、斉明、天智、天武、持統を含む)

六国史(6つの正史)…「日本書紀」「続日本紀」「日本後紀」「続日本後紀」
「日本文徳天皇実録」「日本三大実録」

5. 『古事記』と『日本書紀』の相違

	古事記	日本書紀
編纂命令者	天武天皇	天武天皇
編纂者	稗田阿礼が語り伝え、太安万侶がまとめ奏上	川島皇子らが着手、舎人親王が奏上
成立	712年	720年
巻数	全3巻	全30巻
表記	日本語重視の変体漢文	漢文
収録年代	天地開闢から推古天皇	天地開闢か持統天皇
目的	天皇家の正当性を国内で誇示するため	海外、とくに中国王朝に対して自国の正史を伝えるため
典拠資料	天皇家の系譜や事績、神々や英雄の物語が描かれていたという「帝紀」「旧辞」	「帝紀」「旧辞」の他、中国・朝鮮史書、諸誌や地方の伝承、政府の記録など
内容	天皇家の歴史	律令国家の正史
特徴	神話時代に重点を置きながら、天皇家の歴史を語る。日本語重視の文体。	初の正史。異伝についての注記あり。

『古事記』と『日本書紀』は、内容、形式、文体において違いが見られる。

『古事記』は和風漢文で書かれ物語性が強い。また、「神代」が全体の3分の1を占め、『日本書紀』(181神)に比べ登場する神の数が多い(267神)。

また、出雲神話が『古事記』上巻の3分の1を占めるが、『日本書紀』では出雲神話の扱いは小さく省かれている部分も多くある(稲葉の白兔、タケミナカタ、サルタヒコ、イザナミの死)。

	古事記	日本書紀	
		正伝	一書
1	イザナキとイザナミ	△	○
2	アマテラスとスサノオ	○	○
3	出雲に降りたスサノオ	△	△
4	オオムナジ (白兔、八十神)	×	×
5	オオクニヌシの国作り	×	△
6	制圧されるオオクニヌシ	△	△
7	天孫降臨、日向三代	△	○

古事記に出てくる神話	日本書紀での有無		舞台
スサノヲとオホナムチ	正伝 (本文)	異伝 (一書)	
五穀の起源	×	▲	出雲神話
スサノヲのヲロチ退治	●	●	
スサノヲとクシナダヒメの結婚	●	▲	
スサノヲの神統譜	×	▲	
稲羽のシロウサギ	×	×	
八十の神によるオホナムチの試練	×	×	
オホナムチの根の堅州の国訪問	×	×	
オホナムチの葦原の中つ国の統一	×	×	
ヤチホコの女たち	正伝 (本文)	異伝 (一書)	
ヤチホコのヌナカワヒメ求婚	×	×	出雲神話 (葦原の中つ国)
スセリビメの嫉妬と大円団	×	×	
オホクニヌシの神統譜	×	×	
オホクニヌシとスクナビコナ	×	●	
依り来る神・御諸山に坐す神	×	●	
オホトシの神統譜	×	×	
国譲りするオホクニヌシ	正伝 (本文)	異伝 (一書)	
アマテラスの地上征服宣言	▲	▲	国譲り神話
アメノホヒの失敗	●	×	
アメノワカヒコの失敗	●	●	
アヂシキタカヒコネの怒り	●	●	
タケミカヅチの遠征	●	▲	
コトシロヌシの服従	▲	▲	
タケミナカタの州羽(諏訪)への逃走	×	×	
オホクニヌシの服属と誓い	▲	▲	

● = 古事記とほぼ一致 ▲ = 内容に違いはあるが対応 × = 対応する神話がない

「日本書紀の神話記述は、**出雲神話を排除**したほうが律令国家の歴史を語るにはふさわしいという、きわめて**政治的な作為**がはたらいた結果である。」

(三浦佑之『古事記の神々』(2020))

6. 日向三代

[出雲国譲] → [天孫降臨] (高天原から葦原中国に降臨)

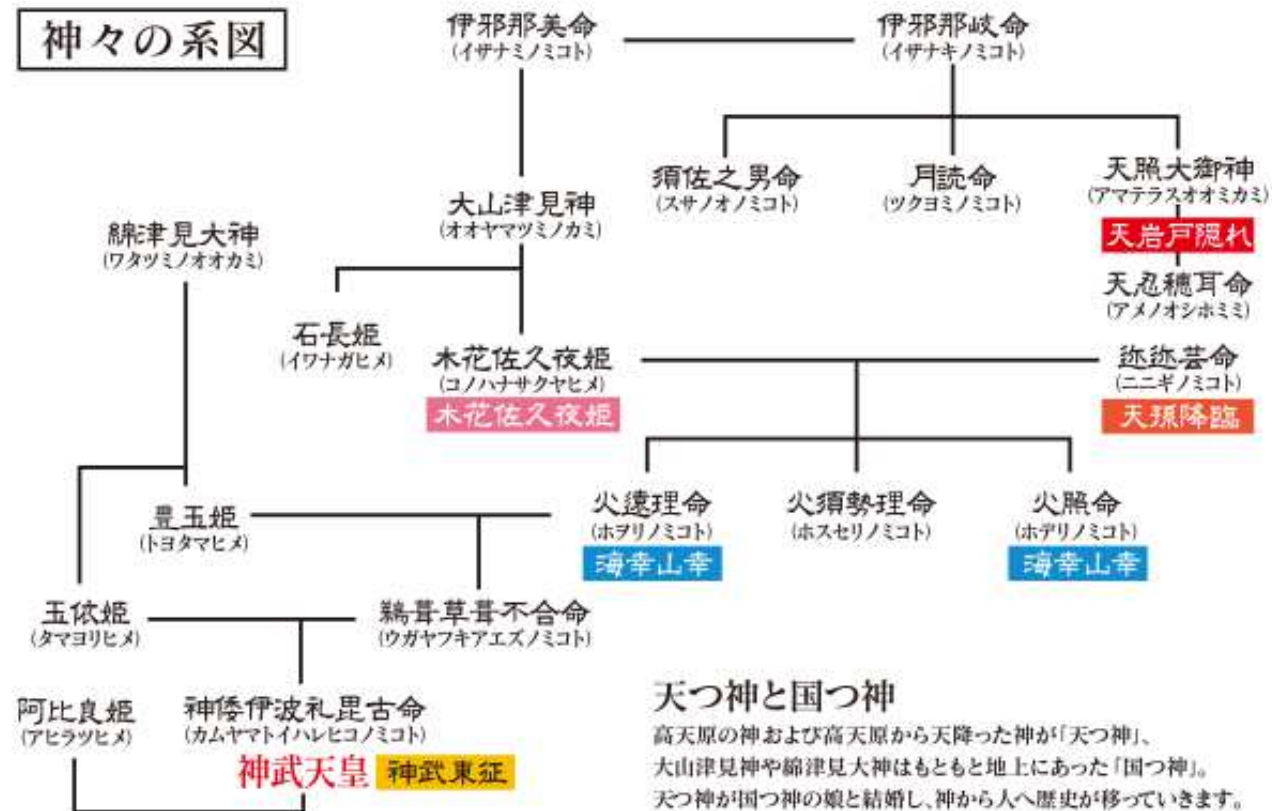
アメノオシホノミミ(アマテラスの子)は降臨せず

1. **ニギノミコト**(アマテラスの孫)……日向・高千穂峰に降臨

2. **ホオリ**(山幸彦、ヒコホホデミ)……ニギとコノハナサクヤヒメの子

3. **ウガヤフキアエズ**……ホオリとトヨタマヒメの子

→ **カムヤマトイワレヒコ**(神武天皇) [ウガヤフキアエズとタマヨリヒメの子]



[陵墓]

ニニギ(霧島神宮の祭神)・・・可愛山陵(鹿児島県薩摩川内市)

ホオリ(鹿児島神宮の祭神)・・・高屋山上陵(鹿児島県霧島市)

ウガヤフキアエズ(鵜戸神宮の祭神)・・・吾平山上陵(鹿児島県鹿屋市)



可愛山陵



高屋山上陵



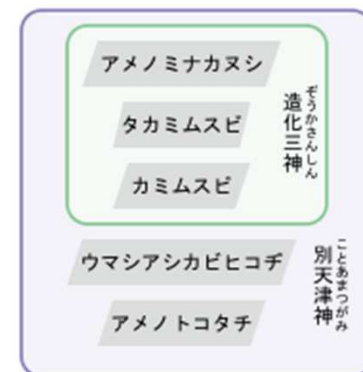
吾平山上陵

[日本神話の内容] (戸田民夫『日本神話』(2003)による、原典は『古事記』)

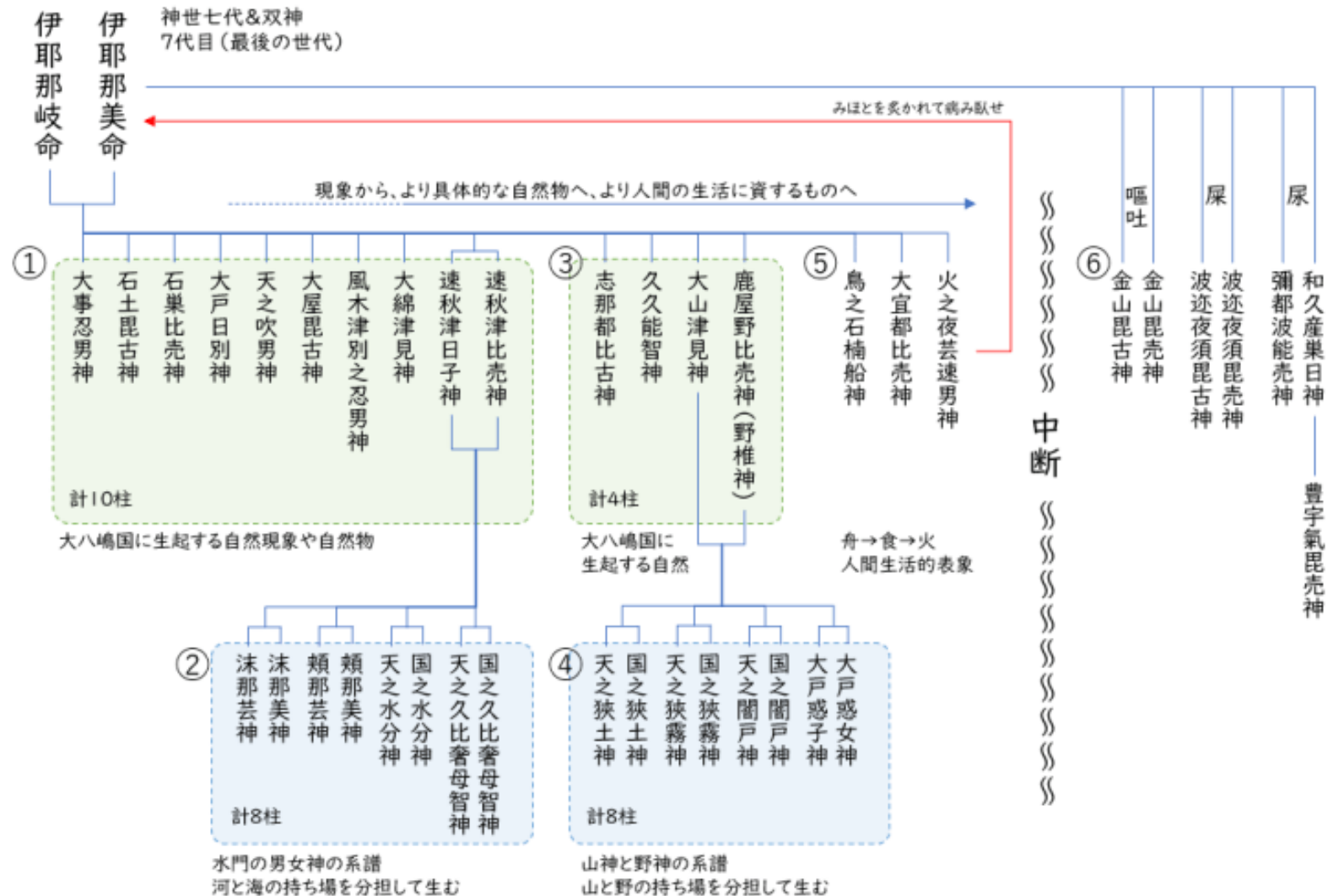
1. 神々と日本国土の誕生

- ・混沌とした宇宙→陽と陰が分かれ天と地を形成(天地開闢)
- ・アメノミナカヌシ、タカミムスビ、カミムスビの誕生(造化三神)
- ・ウマシアシカビヒコジ、アメトコタチの出現(別天神5神[ことあまつかみ])
- ・クニノトコタチ、トヨクモノ、ウヒチニ、ツノグヒ、オオトノジ、オモダルの出現

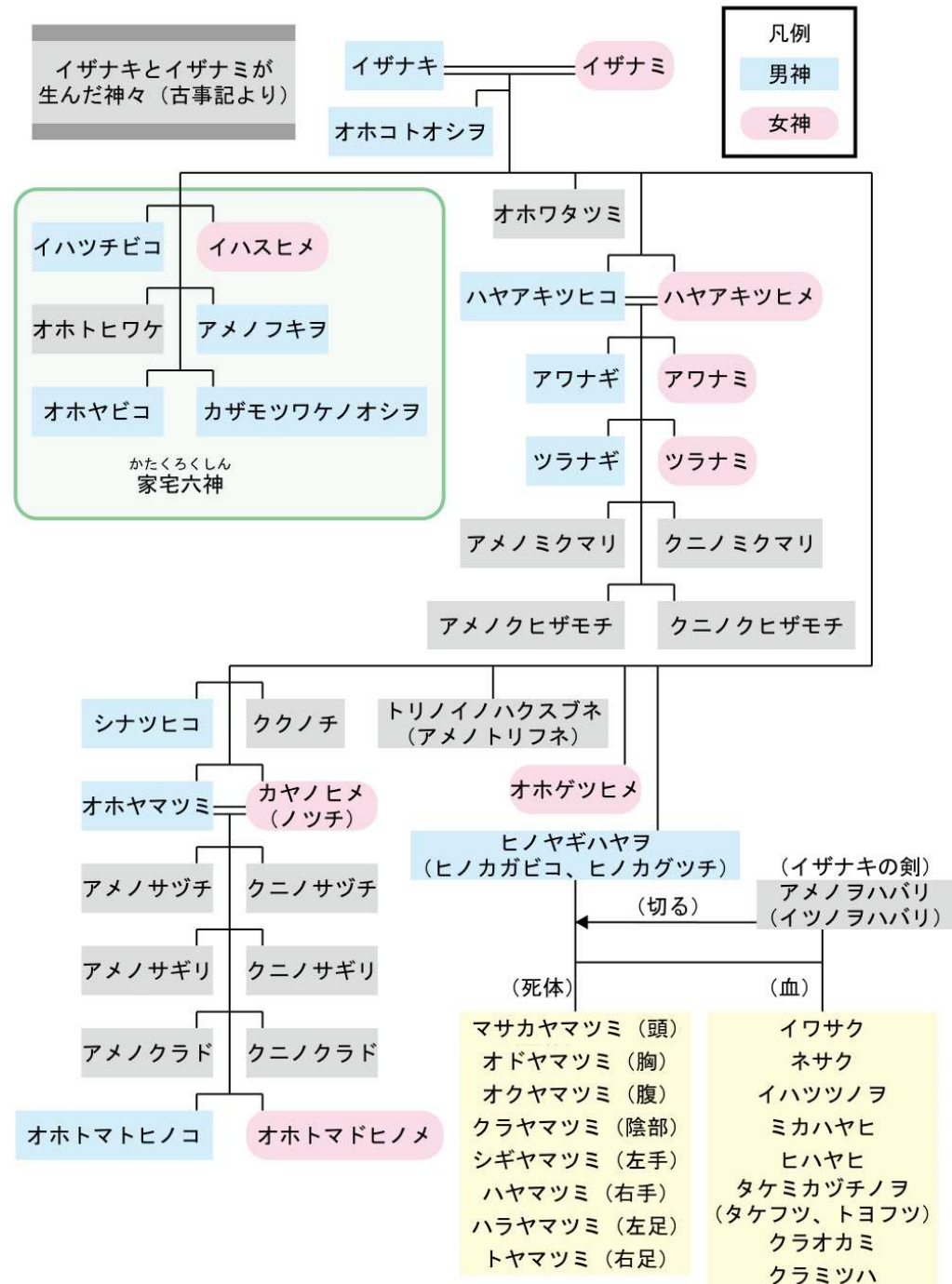
代	誕生した神		場	分類	単複	
1	天之御中主神		高天原	別天神	1	
2	高御産巢日神					2
3	神産巢日神					3
4	宇摩志阿斯訶備比古遲神		天	神世七代	独神	
5	天之常立神					4
6	国之常立神					5
7	豊雲野神					6
8	宇比地邇神	妹 須比智邇神				7
9	角杵神	妹 活杵神	1	双神		
10	意富斗能地神	妹 大斗乃辨	2			
11	於母陀流神	妹 阿夜上訶志古泥神	3			
12	伊邪那岐神	妹 伊邪那美神	4			
			5			



- ・最後に現われたのがイザナギ(男神)とイザナミ(女神)……神代七代
 - イザナギ、イザナミが国生み、神生みを行う(14島35神)
 - オノゴロ島、淡路島、大八島等、ヒルコ(不具の子)

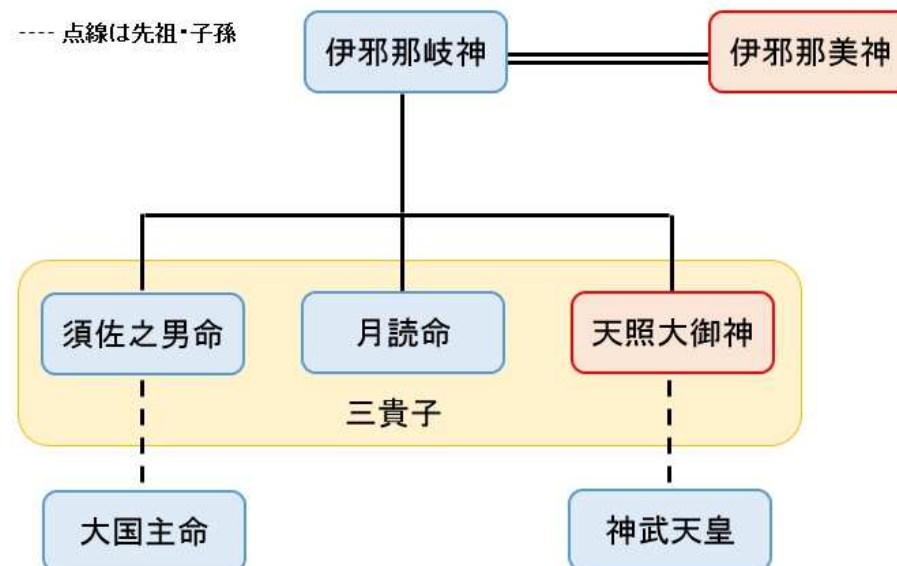


- イザナミの死(陰部[ホト]の火傷)
→黄泉(よみ)の国へ
(出雲と伯耆の境に葬られる)
- イザナミの胎内から農産物の
豊穰に関わる神が生まれる
- イザナギの怒りによって神々
が生まれる
- イザナギがイザナミの死体を見
る(腐敗、ウジ)



2. 太陽神アマテラスの登場

- ・イザナギは九州の日向(ひむか)で禊(穢れを落とす)
- ・イザナギの持ち物、衣類から神々が生まれる
- ・ワタツミ三神(安曇の連の祖)、ツツノオ三神(住吉大社)
- ・アマテラス、ツクヨミ、スサノオが生まれる(三貴神[みはしらのうずのみこと])
- ・**アマテラス**……高天原の統治(日の神、太陽神)
- ・**ツクヨミ**……夜の世界の統治(月の神)
- ・**スサノオ**……海原の統治



- ・スサノオの反抗 → **高天原からの追放**
 - ・スサノオとアマテラスの争いと誓約（うけい）
 - ・アマテラス（スサノオとの誓約）が3人の女神（宗像三女神）と5人の男神を生む
- ・アマテラスの玉から生まれた5人の男神の長子が**アメノオシホミミ**
- ・アメノオシホミミとタカムスビの娘の間で生まれたのが**ニニギノミコト**（天孫）
- ・他の男神は各地の国造の先祖となる
 - ……**統治権の正当性**を神話的に高めようとする意図
- ・スサノオの乱暴が続く（水田の破壊等）
 - アマテラスが**天の岩戸**に籠り、世界は暗黒の闇となる
- ・八百万の神々の相談
- ・アメノウズメ（芸能の女神）が裸になって踊る
 - アマテラスが岩戸を少し開けたところをアメノタジカラオが外に連れ出し、太陽の光が戻る
- ・スサノオが高天原を追放されて出雲に行く
- ・途中で会ったオオゲツヒメを殺し、その死体から様々な農産物が生じる

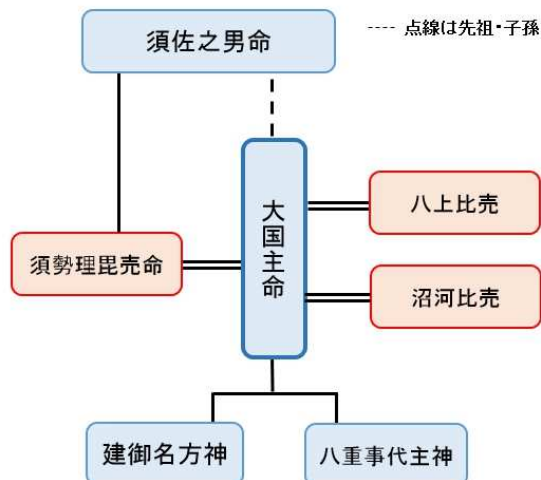
3. 英雄神の闘争・冒険と愛

- ・出雲に行ったスサノオは肥川の上流でクシナダヒメに出会う
- ・ヤマトノオロチが暴れている話を聞き、退治することを決意
- ・ヤマタノオロチと戦って勝利
- ・切り裂いた尾から強靱な剣(草薙の剣)を発見。



・スサノオの6代目がオオクニヌシ

- ・オオムナチ（後のオオクニヌシ）には多数の兄弟（八十神）がいたが、オオムナチ（末弟）を仲間はずれにする
- ・稲羽の白兔の物語……オオムナチが皮をはがされた白兔を助ける
- ・オオムナチがヤガミヒメと結婚 ← 他の兄弟が迫害
- ・オオムナチは紀伊国に逃れる
- ・その後、根の国に行き、スセリビメ(スサノオの娘)と出会い結婚
- ・数々の試練を乗り越え出雲に戻ってきたオオムナチは地上の国の主となりオオクニヌシと呼ばれるようになった
- ・オオクニヌシは高志国のヌナカワヒメと結婚
- ・他にも多くの女性との間で181神を生む(「日本書紀」一書)



4. 葦原の中つ国の主権争い

- ・アマテラスが**アメノオシホミミ**(長男)に**葦原の統治を命じる**
- ・アメノオシホミミは天の浮橋まで来て中つ国を眺め、その混沌状態(不穏、無秩序)を見て高天原に引き返した
- ・そこでアマテラスはタカムムスビ(高天原の司令塔)と協議し、二男の**アメノホヒ**を地上に派遣したが、アメノホヒはオオクニヌシに感心し中つ国にとどまった。
- ・次いで若いアメノワカヒコ(アメツクミタマの子)を送るが、オオクニヌシの娘シタテルヒメと結婚してしまい、高天原に戻ってこなかった。
- ・2回の失敗を踏まえ、オオクニヌシに圧力をかけるため**タケミカツチ**を中つ国に派遣し、国譲りの交渉を行った。
- ・コトシロヌシ(オオクニヌシの子)は中つ国の統治権を天つ神に献上することをオオクニヌシに進言した。
- ・一方、**タケミナカタ**(オオクニヌシの子)は国譲りに反対し、タケミカツチと力競べをするが、タケミナカタに敗北し、信濃国の諏訪まで逃げた。
- ・その結果、オオクニヌシは中つ国の主権を譲渡し引退した。

5. 地上に降る神々

- ・タケミカツチが高天原に帰った後、アマテラスとタカミムスビは長子アメノオシホミミに改めて中つ国の統治を命じたが、アメノオシホミミは代わりに息子の**ニニギ**(母はタカミムスビの娘)を天下りさせることを提言
- ・こうしてアマテラスの孫ニニギが降臨することとなった(天孫降臨)。
- ・その際、アマテラスはニニギに**三種の神器(鏡、剣、玉)**を授けた。
- ・ニニギは下界へ向かう途中(天の八衢)、サルタヒコに出会い、サルタヒコが道案内することになった(サルタヒコの故郷は伊勢)。
- ・また、アメノコヤネ(中臣連の祖)やアメノフトダマ(忌部首の祖)なども同行。
- ・ニニギが降り立ったのは筑紫の日向の高千穂



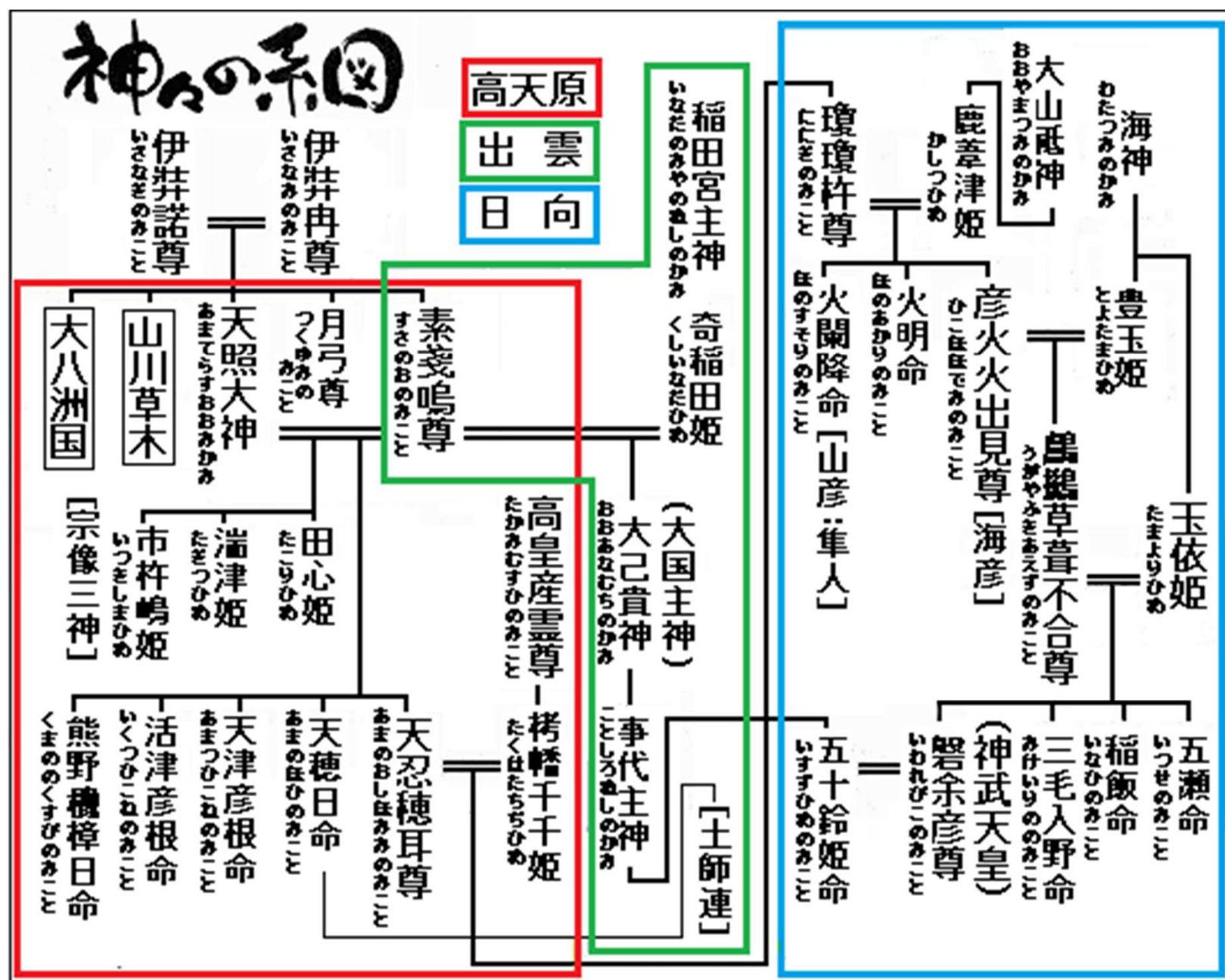
	八咫の鏡 (やたのかがみ)	八咫瓊勾玉 (やさかにのまがたま)	草薙の剣 (くさなぎのつるぎ)
本物	伊勢神宮内宮	皇居御所 剣璽の間	熱田神宮
形代	皇居賢所	-	皇居御所 剣璽の間

6. 地上の王家誕生

- ・地上に降りたニニギは海辺で**コノハナサクヤヒメ**(オオヤマツミの娘)に出会い結婚
- ・しかし、姉の**イワナガヒメ**(醜い容姿)も一緒についてきたので、ニニギはイワナガヒメを追い返した。→ 天皇の寿命に限りがあることの原因
- ・コノハナサクヤヒメは一夜の契りで身ごもり、**ホデリ(海幸彦)**、**ホスセリ**、**ホオリ(山幸彦)**の3人の子を生んだ。



- ・ホオリ(山幸彦)はホデリ(海幸彦)から釣道具を借りて釣りにでかけたが、釣針を魚に取られてしまい、ホデリから強く叱られた。
- ・ホオリは、知恵の神シシオチの助言により船で海に出て、ワタツミ(海の神)の住む宮殿に着く。そこで海の神の娘トヨタマヒメと結婚。
- ・タイの喉に刺さった釣針を見つけ、3年ぶりに地上に帰る。
- ・その後、ホオリ(山幸彦)はホデリ(海幸彦)と対立するが、ホデリが降参してホオリを護衛する役目につく……ホデリの子孫が隼人
- ・トヨタマヒメはホオリの子を生むが、その出産の際、ホオリが産屋をのぞき見たため、トヨタマヒメは海宮に帰ってしまった。
- ・トヨタマヒメが産んだ子がウガヤフキアエズ(神武天皇の父)
- ・トヨタマヒメの妹タマヨリヒメが養母としてウガヤフキアエズを育てたが、ウガヤフキアエズはそのタマヨリヒメと結婚し、イツセ、イナヒ、ミケヌ、ワカミケヌの4人の息子を生んだ。
- ・その末子ワカミヌケ(カムヤマトイワレヒコ)が東征し「神武天皇」になる



Z26. 『日本書紀』神代、神々の系図

[日本神話の起源]

<三層構造>

A 縄文時代以来の固有のもの

B 航海民が持ち込んだ南方的要素

C 騎馬民族の文化の系譜を引く北方系の部分

① 騎馬民族的要素

- ・檀君神話と高天原
- ・天孫降臨(高句麗・百済の建国神話との共通性)
- ・三種の神器
- ・フェルトと真床御衾(まところすま)
- ・プリアート神話との類似(火の神の死)

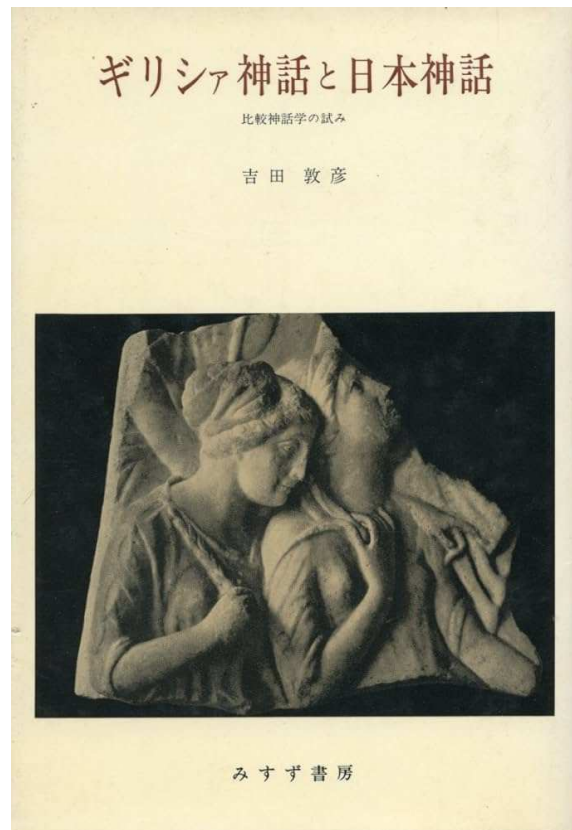
② 南方的要素

- ・稲羽の白兔
- ・竜蛇信仰
- ・江南の太陽神信仰の影響
- ・三貴子(太陽、月、海)
- ・失われた釣針
- ・水の精との結婚

③ ギリシャ神話との類似

- ・アメノウズメの踊り
- ・スサノオがヤマトノオロチを退治し妻を得る
- ・オオクニヌシと八十神の対立
- ・山幸彦と海神の娘の結婚

← ギリシャからスキタイ、高句麗を経て日本に伝わった



[日本神話の研究史]

- ・新井白石『古史通』(1716)……古代の神々を人として合理的・実証的に探究
高天原を常陸国に比定
- ・**本居宣長『古事記伝』**(1790 - 1822)…古事記の詳細な注釈、古事記を高く評価
- ・平田篤胤『古史成文』(1818)……宣長の研究を受け日本神話を独自に解釈
- ・山方蟠桃『夢の代』(1820)……日本神話を批判的に考察
- ・忌部正通『日本書紀口訣』(1367)
- ・吉田兼俱『日本書紀神代抄』(15世紀)
- ・久米邦武「神道ハ祭天の古俗」(1891) ← 国学者から非難され東京帝大教授を辞任
- ・高山樗牛「古事記神代巻の神話及び歴史」(1899)…神話部門と歴史部門を判定
- ・**津田左右吉『神代史の新しい研究』**(1913) ……古事記・日本書紀の史料批判。
「記紀神話は天皇家の統治の由来を物語る政治的な創作物」
- ・**石川三四郎『古事記神話の新研究』**(1921)……世界史的視野から日本神話を研究、月氏族(カチ族)、バビロン、ヒッタイトと日本民族の関係を考察
- ・高木敏雄『日本神話伝説の研究』(1925) …… 比較神話学

- ・松村武雄『神話学原論』(1940)
- ・三品彰英『日鮮神話伝説の研究』 (1943)
- ・大林太良『日本神話の構造』 (1961)
- ・直木考次郎『日本神話と古代国家』(1990) [1965 - 90年に書かれた論文集]
……戦後の古代史研究の第一人者
- ・鳥越憲三郎『出雲神話の形成』(1966)、『神々と天皇の間』(1970)
- ・上田正昭『日本神話』(1970)……岩波新書
- ・上山春平『神々の体系(正・続)』(1972、75)
- ・吉田敦彦『ギリシャ神話と日本神話』(1974)
- ・『講座 日本の神話(全11巻)』(1976 - 78)
- ・『日本神話研究(全3巻)』(1977)
- ・吾郷清彦・鹿島昇編『神道理論体系』(1984)
……神道、日本神話とユダヤ神話、インド神話の関係を考察
- ・森浩一『日本神話の考古学』(1999)
- ・神野志隆光『古事記と日本書紀－「天皇神話」の歴史』(1999)
- ・溝口睦子『アマテラスの誕生』(2009)
- ・三浦佑之『古事記の神々』(2020)
- ・田中英道『日本神話と同化ユダヤ人』(2020)